



卷中



部分

18 耶馬溪図 塩崎林浄

一卷

大正四年(一九一五)
絹本着色
二六・七×六六八・〇

大分の画家塩崎林浄(生没年不詳)より大正の大礼奉祝のために献上された絵巻。絵巻の特徴を活かして、耶馬溪の各所が植田村から始まり日田新道で終わるまで、横へ横へと展開していく。地元の画家だけあって描写は細かく、画中には各村や橋、道、隧道、学校、そして山々の名称を記した小さな紙片が各図の横に貼り付けられている。本絵巻も『青緑耶馬溪真景図』(作品番号17)と同様に、点景として小さく描き込まれるのは中国風の衣裳を身にまとった人物たちであり、かつて頼山陽がこの地に見出した中国の理想郷のイメージを投影していることが分かる。

頼山陽は、文政二年(八一九)に自身が制作した「耶馬溪図巻」の冒頭の詩文中で、耶馬溪の風景は唐の文人画の大家である董源と巨然、また元末に活躍した文人画家黄公望、倪瓚、王蒙を思わせるとして、こうした中国の山水図に描かれる奇怪な岩山は現実のものではないと自分は考えていたが、この地にいたってそうした山水の景が実在することを知ったと語っている。本図もそうした山水図の世界を現実化したかのような耶馬溪から作者が得た感興をもとにしながら、緑と茶系の染料で控えめに彩色した山肌を淡墨で柔らかく皴と点苔を入れる文人画風の山水図に仕上げている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan